

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



87
vol. November
2011

International University of Health and Welfare

第16回 風花祭

大田原キャンパス

国際医療福祉大学学会学術大会

海外保健福祉事情

日本大震災
支援募金
わたりつなぐ
心と力

岩魂
JAPAN
WELFARE
UNIVERSITY

宮城岩沼野菜

岩魂
THANK YOU FOR JAPAN
PLEASE TO HELP
NEVER GIVE UP

販売
ました
5/10/2011



震災で生まれた **絆**

学園祭で岩沼市の野菜を販売

東日本大震災では本学の学生、沼田ゆきえさん(医療福祉・マネジメント学科2年—当時)が犠牲になった。これを受けて学生や教員が地元岩沼市でボランティア活動に取り組み、延べ9日間、248人ががれきの撤去や畑の泥出しなどを行った。その畑で収穫された野菜とゆきえさんの父親民雄さんの紹介で仕入れた地元の野菜(小松菜、白菜、ブロッコリー、レタスなど)を風花祭で販売したところ初日に完売。これらの利益と岩沼市応援ポロシャツ販売の利益、寄付の合計約20万円は学生が直接岩沼市に持参する。



●野菜は初日に完売の大盛況

P.19の
学生投稿ページも
ご覧ください。

今年のツーショット



●ファッションの統一感でセレクト



●穏やかな雰囲気です

October 15~16 **2011**
第16回大田原キャンパス

かざはなさい

風花祭

今年のテーマは

「Ability ~秘めた力、今解き放て~」

それぞれが持つ秘めた能力を今こそ発揮してもらいたいという願いがこめられた。初日はあいにくの雨模様だったが、晴れ間を見つけて屋外の模擬店も開店。2日目は一転して気温が26℃を超える汗ばむような陽気になった。(東京事務所広報室 金井雅之)

特集1



いがかめられた。

手話研究部メビウスの手話劇「白雪姫」



●小人役の人を小さくするのは無理なので、白雪姫を大きくしたようです。



●たい焼き。あんこの入れ方が大雑把!

調理
3景



●たこ焼き。こちらは家元のような手つき



●かき氷。取材用の特注サイズに挑戦



ストリートスナップ

まだまだたくさんのいい顔、いいポーズ。全部載せられないのが残念です。



IUHW International University of Health and Welfare
vol.87 November 2011
CONTENTS

2.3 特集1 第16回風花祭 大田原キャンパス



4.5 特集2 第1回国際医療福祉大学 学会学術大会

第44回万国外科学会北島学長基調報告

6.9 特集3 海外保健福祉事情

中国・台湾・ベトナム・オーストラリア・ハワイ・韓国

キャンパスレポート

- 10 小田原キャンパス 第20回
- 11 福岡天神キャンパス 第10回
- 12 大川キャンパス 第24回
- 13 塩谷看護専門学校 第2回

トピックス

- 13 栃木地区医療連携懇談会
第1回幸齢者スクール
- 14 RT/韓国学術交流会
NS/第2回絆会・ウイン・ウイン・ウインを終えて
SHM/実習報告会・医療経営戦略セミナー
- 15 大学院・福祉援助工学分野/合宿発表会
第27回日本義肢装具学会学術大会

震災関連ニュース

- 16 サクラグローバルホールディング 松本謙一会長に感謝状
福島原発事故後の栃木県の放射能レベル
- 17 新宿けやき園 職員の災害派遣と施設の被災者支援
大学院・臨床心理学専攻/歯科従事者向け心のケアを実施

- 18 卒業生・留学生通信
- 19 学生投稿ページ07 災害ボランティア活動 PART2
- 20 IUHW Information
医療福祉eチャンネル

国際医療福祉大学学会学術大会

9月2日(金)・3日(土)、大田原キャンパスで、第1回国際医療福祉大学学会学術大会が開催された。

国際医療福祉大学学会(会長・北島政樹学長)は、昨年九月、保健・医療・福祉の進歩・啓発・連携を図ることを目的として設立され、学術研究のレベルの向上、関連職種間および附属・関連施設との連携、同窓生への卒業教育の場として位置づけられている。

第一回学術大会(大会長・丸山仁司保健医療学部長)は従来の学内奨励研究発表会を拡大し、教職員・学部学生、大学院生、卒業生および附属・関連施設の職員の研究発表を対象としている。今回は「日本の保健医療福祉の潮流―IPEのためのIPEC―」をメインテーマとして、関連職種連携を中心に企画した。



●がんに対する外科医療の変遷を述べる北島学長

(二日目)

9:30~12:00
平成二三年度関連職種連携実習報告会
13:00~13:20

開会式

- ・会長挨拶 北島政樹会長
- ・大会長挨拶 丸山仁司大会長
- 特別講演I 北島政樹学長

「人に優しいがん医療の現状とチーム医療の展開」

がん医療は、標準治療・医師主導から、低侵襲・個別化治療に中心が移り、高齢化社会では、さらにチーム医療が主体となった。内視鏡下手術を可能にした医工連携の進歩は、今や手術用鉗子の先端に触覚を装置し、遠隔地へ触覚を転送することも可能にしている。がん治療では、看護・薬学・放射線・リハビリに加え、精神腫瘍医の支援も要求されるようになった。学生時代からチーム医療の理念を修得するため、本学は関連職種連携教育を実施し、日本型チーム医療の発展に貢献している。

14:50~17:50
シンポジウム(司会・杉原素子副学長)

- ・岩谷力 副学長
- ・小田正枝 福岡看護学部長
- ・半田一登 日本理学療法士協会長
- ・中村春基 日本作業療法士協会長
- ・深浦順一 日本語聴覚士協会長
- 福岡リハビリテーション学部 言語聴覚学科長



●ポスター掲示会場

学会誌ロゴ採用作品が決定!

本学の学生、教職員、関連施設職員に向けて学会誌ロゴを募集したところ、一・二点の応募があり、選考の結果、理学療法学科 四年、小松紗耶香さんの作品が採用されました。このあと若干の調整を加えて学会誌の表紙が完成します。これにより、従来の「国際医療福祉大学紀要」は「国際医療福祉大学学会誌」と名称を変更してさらにレベルアップしていきます。



●ここまで発展してきた大学のシンボルマークを生かしつつ、4キャンパスと4附属病院がそれをとり囲んでいるイメージ

9:00~12:15
ポスター掲示・ポスターセッション
閉会式

(学会誌編集委員会)

- ・山田徹人 視機能療法学科教授
- ・金場敏憲 放射線・情報科学科准教授
- ・丸木一成 医療福祉学部長
- ・小林雅彦 医療福祉・マネジメント学科副学科長
- ・旭満里子 薬学科副学科長
- ・小野寺敦志 臨床心理学専攻准教授



●職種間連携について各職種の代表がそれぞれの立場から意見を交わした

職種間連携と関連職種連携教育のあり方、今後の展望について、各職種を代表する方々からそれぞれの本音を交えた問題提起があった。「何のための連携か」「アメリカでも医師がチーム医療のコンセプトを理解しないと機能しない」「医師とコメディカルが対等であるという構造変化を起さなければ」といったパネリストの意見に対し、客席からも多くの意見が述べられ、白熱した議論となった。

10:00~17:50
ポスター掲示

第44回万国外科学会 北島学長基調報告

八月二八日から九月一日、パシフィコ横浜で第四四回万国外科学会が開かれた。これに合わせて、二七日、「外科の進歩で人は幸せになったか」をテーマに市民公開講座が開かれ、北島政樹学長(万国外科学会元会長)が基調報告を行った。

外科の歴史は、大きく切って大きく傷を残す手術から、小さい傷で患者さんに優しい手術を目指してきた歴史です。

石器時代には、血を抜き取る瀉血などの治療が行われました。古代ギリシャでは、紀元前にヒポクラテスが外科を学問として体系化し、外科の手法や消毒法もこの頃始まりました。中世では、医療は理髪師や錬金術師が行いました。一七世紀には、血液は循環しているという現在の医学の常識が証明されました。

日本では一七四四年、杉田玄白、前野良沢が解剖を見学し、「解体新書」を日本語に訳して出版しました。一八〇四年、漢方と蘭学を学んだ華岡青洲がチョウゼンアサガオを使った麻酔薬「通仙散」を作り、全身麻酔で乳がん手術を行いました。米国ボストンでエーテルによる全身麻酔手術が行われる約四〇年前のことです。華岡はまず母親に低用量で試し、妻に手術ができる用量を投与して麻酔がかかることを確かめました。妻はそれで失明したと言われています。

(二日目)

9:00~10:30
口述発表

- ・リハビリテーションクラスター
- ・感覚器・神経クラスター
- ・支援クラスター
- ・支援クラスター・教育
- ・医学・生理1
- ・医学・生理2



●6会場で実施した口述発表

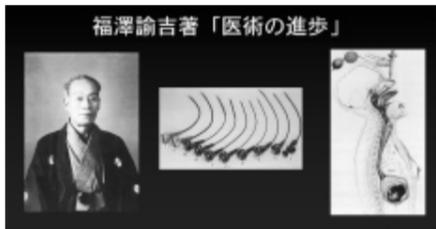
特別企画

- ・看護学科合同企画
- 「教育講演・看護研究の基礎」
- ・理学療法学科企画
- 「国際協力と活動―理学療法分野など」
- ・おおるり会(言語聴覚学科同窓会)・言語聴覚学科共催企画
- 「小児の摂食・嚥下障害へのアプローチ」
- 東京都立北療育医療センター
- 言語聴覚士 高見葉津氏



●高見葉津氏の特別講演

その後、色々な消毒法、無菌法が生まれ、一九二九年、ペニシリンが発見され、手術が安全にできるようになりました。日本へは奈良時代までに中国医師が入りました。西洋医学は、長崎の出島でシボルトが蘭学を伝えました。緒方洪庵は大阪に蘭学を教える適塾を作り、適塾で学んだ福澤諭吉は一八五八年、江戸に蘭学塾を作り、これが慶應義塾の始まりということでした。



●120年前、既に内視鏡手術を予見していた!

福澤は一八八三年、「医学進歩の道案するに、十中八九、器械的に頼らざるものなし。子宮、直腸、または膀胱、胃の裏面のごときは、針のような器械を入れて、その実況を写し見ることになるだろう。医学は外科より進歩す」と記しました。今から二〇年以上前に内視鏡手術を予見していたのです。外科の進歩で人は幸せになったか。「医学は外科より進歩す」という言葉がその結論だと思います。

その後、東京大学の前身でドイツの医師から教育を受けた医師が全国に散らばりました。第二次世界大戦後、米国医学が入り、日本の医療は国際化しました。華岡青洲の「内外合一、活物窮理」とは、外科医は内科の知識も備え、その知識を手術適用の決定や手術後の管理に生かさなければならないという意味です。

海外保健福祉事情

本学では国際的視野を備えた医療人の育成のため、夏休みや冬休みを利用して、海外の協定校での臨床実習、語学研修、医療福祉施設見学を実施しています。

この様子は、展示発表(10月15～31日)、報告会(11月1日)において発表されました。



中国研修 中国リハビリテーション 研究センター

活き活きとした表情で進んだ
研修

福岡リハビリテーション学部
作業療法学科講師 新川寿子

北京では、二六名(大田原六名、小田原一〇名、大川一〇名)の学生が、中国リハビリテーション研究センター(CRRC)の理学療法科、作業療法科、薬剤科での実習に臨んだ。

大多数の学生が二年生でまだ実習の経験に乏しいため、当初は不安気であったが、「患者様への評価や治療の実施」「漢方薬を調合」などを指導者のもとで体験するにつれ、活き活きとした表情で教職員に報告に来る学生が印象的



●Japan Dayの様子

であった。また、指導者や首都医科大学の学生との交流が上手く図れず、外国語習得の重要性を痛感した学生も多



●為恭記念病院見学時の記念撮影

する姿勢を感じ、自分に身に付いていない感覚を教えていただいた。たくさんの方のお世話になった。元培科技大學蔡理事、先生方、学生ボランティアの皆さん、カフェテリアのマスター、バスの運転手さんなどどう伝えたらいいかわからないくらい感謝の気持ちでいっぱいである。

国によって違う「普通」に気づく

福岡看護学部
看護学科三年 新原沙耶

八月三日から一四日間、本学の二〇名の学生が元培科技大學の学生と共に過ごした。台湾では日本語を学んでいる学生が多く、日本に興味を持ってくれている。研修中の中国語講座では、分かるようになる中国語に興味を持つことができた。文化講座では、水墨画や台湾料理作りなど日本ではあまり経験できないことが体験できた。

台湾では、四つの医療施設(リハビリテーション、ICU、精神、ホスピス病棟な

ベトナム研修 チョウライ病院

★
最前線の現場のエネルギーを
体感

福岡リハビリテーション学部
作業療法学科教授 奈良進弘

到着したベトナム・ホーチミン空港の外の道路は、バイクで埋め尽くされていた。市内だけで数百万台のバイクがあり、ホーチミン市内では早朝から深夜までバイクでぎっしりと埋まった



●最前線のICUでの実習

かった。JICAの協力事業について講義を受け、西城区溫馨家園を訪れ障害者の就労支援を見学するなど充実した研修内容であった。

漢方の薬局で実際に調剤

薬学部
薬学科二年 有田愛

主に漢方の薬局で実際に調剤をさせてもらった。たくさん生薬の中から処方箋に書かれた生薬を秤で必要量を量りとり、それをまとめて袋に入れる。その後、高圧鍋で液体にし、それが患者のもとに届けられる。実際に、患者に届けられる薬だったため、調剤する際とても緊張した。また、TCMの先生から診察や針を打っていただいた。リハビリの見学では、治療室は患者、家族、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)でいっぱいだった。家族が患者にリハビリをしている姿は、とても印象に残っている。

休日には、動物園、故宮、万里の長城などを観光した。動物園ではパンダを見るのができ、万里の長城では、女坂と間違えて男坂を女子三人で歩いたりもした。また、京劇も見ることができ、中国の文化にたくさん触れるこ

新しい自分との出会い

小田原保健医療学部
作業療法学科二年 安田すみれ

状態だということ。ベトナム最大級の規模をほこるチョウライ病院が研修の拠点である。病床数をはるかに越えた入院患者に対応しているとのことで、病棟内の至る所にベッドが配置され、病院内は患者と付き添い者で埋め尽くされているような状況だった。グループに分かれての院内各部門の研修では、そのような人中をかくくぐって移動し行われる。最前線の現場での研修では、病院スタッフからの熱心な説明に我々も引き込まれていく。そのエネルギーのためか、あつという間に過ぎてしまった二週間だったが、研修での体験と病院スタッフの皆様や患者さんとその家族の方たちとふれあいは、言葉の壁を越えて多くの示唆を残してくれたことだろう。参加された学生諸君がそれぞれの専門の追求を通じて、お世話になった多くの方々の思いに添えていって欲しいと思っている。

そして一番忘れられないのは、この研修を通して得たたくさんの方との出会いである。現地の方々、本学の仲間たち、新しい自分。たくさん笑顔をに出会い、それは今も変わらず私の活力となっている。だからこそ出会った全ての人々に「ありがとう」を伝えたい。



●Japan Dayで修了証が授与された



●薬学実習の様子

台湾研修 元培科技大學

保健医療学部
放射線情報科学科講師 室井健三

海外保健福祉事情の台湾研修に参加する貴重な機会を頂いた。引率教員として反省も多いが、参加学生諸君の協力により無事研修を終了でき安堵している。

台湾の保健福祉事情について、日本との違いを強く感じたことがある。医療サービス提供の国際化である。台湾では、中国語はもちろん、英語、日本語など母国語以外の言葉を流暢に話される方が多く、海外の方も安心して医療サービスを受けられるよう準備が進められており、既に実践されていた。台湾では世界に目を向けた様々なサービスを提供しようと



オーストラリア研修 TAFE

言葉の壁を越えてパワフル こっぴくフォーティワン

福岡看護学部
看護学科講師 永井あけみ

オーストラリア研修に熱い思いを抱く学生は多く、今回四キャンパスから総勢四一名が研修に参加した。
彼らは六月から毎週遠隔会議を重ね、訪問する介護施設入居者の方へのお土産は手作りうちわ、日本文化紹介は盆踊りと唱歌と決め「やるならちゃん」と合言葉に、初顔合わせの空港で盆踊りの稽古をしてゴールドコーストへと出発した。

「医療制度」の講義では日本の制度と比較した質問が活発になされ、講師の方よりお褒めの言葉を頂いた。介護施設訪問では、一人では着れなかったはずの浴衣もわずか二週間で着付けを習得して無事盆踊りを披露。入居者の方々も満面の笑みで交流会を楽しんでいた。

ホームステイやTAFEでの授業の効果は目覚ましく、友達同士の会話も英語で通そうとしていた姿が印象的であった。帰国後も本講師に日本語では話そうとしない学生が数名おり、海外研修の目に見える成果が実感できる。福島原発を守り抜いた五〇名の方が福島ヒフティと呼ばれるが、



●デ・ボール介護施設での交流会

言葉の壁にもめげず体当たりで研修した彼らを国福フォーティワンと呼びたい。

日本は決して孤独ではない You'll Never Walk Alone

福岡看護学部
看護学科三年 吉岡知美 古林悠

語学の授業やフットマッサージの講義を受けた語学学校TAFEで、初日にオーストラリアの医療制度について講義があった。その中で、オーストラリアでは原住民のアボリジニの平均寿命が他の人々より二〇年短いことが問題とされていると言われ、少数民族を大切にすお国柄であることがうかがえた。

現地の病院や介護施設では、高齢で障害を抱えていても、生き生きと自分らしくあつた。その中で、オーストラリアでは原住民のアボリジニの平均寿命が他の人々より二〇年短いことが問題とされていると言われ、少数民族を大切にすお国柄であることがうかがえた。

Remedial Care講義でのマッサージ演習



●Remedial Care講義でのマッサージ演習

ハワイ研修 カピオラニ コミュニティ・カレッジ

絶好のロケーションで 見聞を広める

福岡看護学部
看護学科准教授 古川秀敏

八月三日から一七日まで、福岡看護学部の学生一〇名、言語聴覚学科の学生四名がハワイで研修を行った。
カピオラニ・コミュニティ・カレッジ(KCC)はハワイのパワースポット、ダイヤモンドヘッドのふもとにあり、坂道を登りきったところにキャンパスが広がっている。大きなキャンパスでは毎週土曜日にファミリーマーズマーケットが開かれ、地域住民のみならず観光客にも人気のスポットとなっており、

まさに開かれた大学という感じである。講義室からはハワイの海も望め、カラッと暑さの中、気持ち良く、英会話や医療福祉事情、ハワイの文化について講義を受けた。学生は質問に戸惑いながらも、一生懸命、英語で回答していた。

リハビリテーション病院や日系人が設立に尽力されたクワキニ・メディカルセンター、老人ホーム、ハワイアンを対象とした老人ホーム、飛行機で患者搬送を行っているハワイ・フライト・ライフなども見学し見聞を広げた。



●英会話授業の様子

二週間で英語が確実に上達した

福岡看護学部
看護学科三年 北島奈弥

英語の授業、ハワイの文化、ハワイの保健福祉事情、病院・リハビリテーション・老人ホームなどの施設見学を行った。英語の授業では、レストランでの注文、ツアーへの申し込み、買い物など、二週間の滞在中に使える英会話を中心に授業が行われた。最後に、二人グループになってプレゼンを行った。英語でのプレゼン作成は時間もかかり大変だったけれど、みんなよくできていて発表は楽しかった。最初は聞きとることすら困難だった英語であったが、帰国する頃にはだいたいの聞きとれるようになっていた。

施設見学では、日本と違ったものを見る機会もあり、充実した時間を過ごせ、日本より医療が発達していると感じた。休日は、海に行ったり、買い物に行ったり、シュノーケルに行ったりとみんなそれぞれ楽しんだ。日本ではまずすることのないチップの支払いにはみんな戸惑い、大変だった。二週間、日本では学ぶことができない異文化体験などができ、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。



●最終プレゼンテーションの様子



●終了式を終えて



韓国研修 建陽(ニヤン)大学

全員が無事修了 温かい歓迎に感謝

福岡リハビリテーション学部
理学療法学科准教授 金子秀雄

八月三日、福岡リハビリテーション学部と福岡看護学部の学生九五名は福岡空港を出発した。韓国研修は四年目を迎えるが、建陽大学で約一〇〇名の学生が同時に研修を行うのは今回が初めてである。雷雨の中の到着だったが、時々差す陽に安堵しながら大学に向かった。歓迎の横断幕を目にしながら真新しい寮に案内され、短期研修冊子が渡された。総長をはじめ教職員から温かな歓迎を受け、気持ちより引き締まった。

研修は学科別で、理学療法学科は講義、病院見学、ボランティア活動、学生交流プログラムは学生主導で進み、小グループ単位の病院見学やショッピングを通して、韓国の医療福祉や文化を学んだ。パンソリ、チマチョゴリなども体験できた。毎晩の韓国語授業に疲れを見せる学生もいたが、全員が二週間の研修を修了できた。建陽大学の関係者に感謝し、さらに交流が深まることを願う。



●体育館でのレクリエーション

韓国の学生の学習意欲を見習いたい

福岡リハビリテーション学部
言語聴覚学科二年 田口智子

まず一つ目を感じたことは、韓国の学生は非常に勉強熱心であるということだ。日本では、授業中の私語や居眠りなど意欲のない学生の光景が見られる。しかし、韓国では、このような学生は存在しない。授業中、自らの意見を積極的に主張し、学生の意欲の高さが印象的だった。私達は韓国の学生を見習わなければならないし、このままだと私達の年代では韓国の医療が日本を追い越すと感じた。私自身も韓国の学生に負けないように、勉学に対する向上心を常に持ち、授業に取り組みようと思った。



●初めて着るチマチョゴリであいさつ

二つ目は、日本と韓国の医療的役割の違いである。韓国は、言語聴覚士が国家資格ではない。そのため、言語療法や嚥下訓練などを作業療法士が担当していた。また、韓国で行っている言語療法は日本のやり方と違い、少し荒い訓練のように感じ、とても驚いた。私は、韓国でも言語聴覚士が国家資格となり、より専門的な技術が普及することによって多くの患者を助けられるのではないかと感じた。事前に準備をしてくださった先生方や韓国の関係者に感謝し、これからの生活を有意義なものにしたい。



韓国研修 仁済(インジエ)大学

学生の積極性で実り多い研修に

福岡リハビリテーション学部
理学療法学科教授 藤城直一

八月三日より二週間の研修であった。仁済大学は釜山市に隣接する金海市にある総合大学で、丘陵地の緑濃い美しいキャンパスである。総勢約一〇〇名の訪問団は学内の見晴らしの良い学生寮で過ごし、多くの学生にとって二名一室の寮生活は、貴重な体験となったことであろう。午前は医療に関する講義、午後は病院や博物館訪問などのプログラムだった。大人数による見学であったが、全て時間通りに実施されたのは、学生が真面目に行動した結果である。休日には多くが釜山へ出かけた。言葉の問題を乗り越える積極性は素晴らしい。学内には人工芝の美しいサッカー場があり、学生達の要望に応じて頂き、夜間照明の中、裸足で日韓戦が行われた。夏期休暇中の韓国学生は寮に共に泊まり、プログラムを超えて学生間交流が進められた。大学・理学療法学科・作業療法学科の教員・学生の皆さんに大変お世話になった。



●釜山大学ヤンサン病院見学(リハビリテーション用のプール)

日本と韓国の違いに驚く

福岡看護学部
看護学科三年 城間志織

今回の研修を通して、韓国の医療や看護サービスについて学ぶことができた。韓国では、看護師は社会的に認められている職業であることがわかった。看護教育は日本と同様に三年制と四年制があるが、今年から四年制に統一する取り組みが行われている。日本と異なる点は、教育課程の差に関わらず給料は勤務年数により算定される点や、海外での就職率が高いことであった。仁済大学では、前期・後期のそれぞれ前半二カ月で講義、後半二カ月で実習というように、学んだことがすぐに実践できるカリキュラムであった。日本では講義で単位をとった後に一年ほどかけて実習に行くため、この大きな違いに驚いた。医療施設は、アジア医療の中核として不便を感じないサービスを提供することを掲げていた。日本ではあまり見かけない「国際医療センター」があり、外国語が堪能な医療スタッフが配置されていた。韓国の学生は英語も流暢で、日本は外国語の学習が足りないと実感した。



●韓国学生も交えた伝言ゲーム

Odawara

第20回 小田原キャンパスレポート

ボランティア活動等表彰式

小田原キャンパスでは、平成二十二年
度からボランティア活動の表彰制度を
設けている。この表彰制度は、学部と
してボランティア活動を奨励すると
ともに、共に活動する仲間の輪を広げる
ことを目的としている。

毎年、潮風祭において自分たちが取
り組んできたボランティア活動をボス
ターで発表してもらい、地域交流委員
会が、その活動の地域貢献度、継続性、
広がり、他の学生の模範となるか等の
視点から審査し、
潮風祭の会場
で表彰を行っ
ている。

今年は一二
グループから
活動発表があり、
一〇月一五日
(土)に、杉
原素子小田原
保健医療学部
長より表彰状
が授与された。



●ボランティア活動への参加を呼びかける

毎年、ポスター発表をするグループ
が増えてきており、地域におけるボラ
ンティア活動の充実が見られるだけ
なく、県外・海外でボランティア活動
を行うなど広域化も見られた。

リレー・フォー・ライフ・
ジャパン in 新横浜
ボランティア活動等
表彰式で表彰されたグ
ループのひとつに、「リ
レー・フォー・ライフ・
ジャパン in 新横浜」の
支援活動があった。
リレー・フォー・ラ
イフ(命のリレー)は、
がん患者支援のためのアメリカ発
のチャリティ・イベント。がん患者や
家族、支援者らが公園やグラウンドの会
場を二四時間交代で歩く。世界二〇カ
国以上で行われ、日本では二〇〇六年
の茨城県つくば市を皮切りに、全国各
地で開催されるようになった。
横浜では、九月一〇日(土)～一二日(日)
にかけて、日産フィールド小机で開催さ
れた。小田原キャンパスでは、この活動
を支援するために、四五名の学生や教職
員が参加。理学療法学科の学生は歩き終
わった参加者にストレッチやマッサージ
を、看護学科の学生は参加者の介助や会
場設営等の活動を行った。当日は黒岩祐
治神奈川県知事も会場に顔を見せた。
参加した学生は、「ルミナリエが感
動的だった」「がん患者と接し、体験
談を聞いてよかった」「できたら、大
学のある小田原市で開催したい」など
と感想を話していた。



●がん患者さんの支援のためにウォーク

Fukuoka Tenjin

第10回 福岡天神キャンパスレポート

海外保健福祉事情

福岡天神キャンパスは都市型キャンパ
スとして開設され三年目を迎え、本年度
一大イベントである初めての海外研修を
実施。八月三日～一七日まで五カ国六カ
所において一期生が学ぶことができた。
このような機会を提供いただいた相手国
の方々および支援を賜った保護者の方々
には心より感謝申し上げます。

さて、本学部では初の研修となるため、
国際交流委員会が企画・運営を行いながら、
事前学習セミナー、事後の報告会、ま
とめまでの一連のプログラムを進めること
ができた。既に九月一六日に研修報告会
を終え、研修前後の評価を行ったところ
である。中間的な評価からは、海外研修に
おける学生の達成感が高く、今回の多く
の経験が多文化理解につながったようだ。

研修先は韓国の建
陽大学三二名、仁済
大学三二名、台湾六
名、ベトナム三名、
オーストラリア一
名、ハワイ一〇名で
あり、他のキャンパ
スを含めると総勢三
二五名の学生が参加
した。

引率は本学部から
五名、他のキャンパ
スから総計一九名の
教員が配置された。
海外研修は国際保健
論の科目に位置づけ
られ、多文化理解を
軸に専門職としての国際的な視点を修得
し、世界に貢献できる能力を育成するこ
とを目的としている。



●ハワイへ出発(福岡空港にて)



●韓国研修壮行会

【表1】海外研修の運営スケジュール

時期	内容
1月	海外研修国希望調査
4月	新入生対象海外研修概要の説明
4月5日	2・3年生オリエンテーション
4月13日	海外研修語学開始(英語・ハンダ語)
4月15日	海外保健論オリエンテーション
4月15日～7月13日	事前学習セミナー開始
5月	海外研修届、同意書、パスポート提出
7月12日	海外研修壮行会(韓国以外)
7月13日	事前学習報告会・中間評価
7月21日	健康調査実施
7月22日	海外研修壮行会(韓国)
8月3日～17日	海外研修渡航
8月23日	第7回国際交流委員会(公開)
9月16日	研修報告(プレゼンテーション)
	冊子作成(科目事後評価、全体評価)
9月26日	国際交流委員会(中間評価)
10月15日	大学祭(研修報告)
11月21日	引率教員、学生報告書作成、IUHW投稿
11月22日	本年度評価、次年度計画面

今回、海外研修の運営
は表1に示す流れで企画
から実施 評価まで行った。
研修前後で報告会を設け、
事前学習では各国の社会・
文化的な背景を捉え、保
健医療福祉の現状を調べ、
研修後にはその成果を評
価し冊子にまとめ、各国
の情報を共有した。
学生のプレゼンテーシ
ョン能力はメキメキと上
達し、研修への期待が膨

潮風祭

第六回 彩・いろいろどり

一〇月一五日(土)、一六日(日)、
小田原キャンパスにて第六回潮風祭が開
催された。今年のテーマは「彩 いろど
り」。一人ひとりの個性を存分に出し、さ
まざまな色を出していこうとのことから、
このテーマが採用された。

また、今年の潮風祭は過去のものとは一味
違う。小田原市内にある小田原女子短期
大学、関東学院大学、そして本学の三大
で連携しての開催となった。今年初の
試みというところで、他大学の学生が軽音
ライブへ参加し、場を盛り上げてくれた。
一日目に開催された
ピンゴ大会。毎年恒例
のイベントであるが、
今年は学生の意向もあり、
参加料として集めた取
益金全額、日本赤十字
社を通して東日本大震
災の義援金として寄付
することになった。ピンゴ大会だけでな
く、屋台出店で参加した団体すべてから
利益の一部を義援金に寄付すると賛同を
受け、約四万円の義援金が集まった。



●特大のクマ。どうやって持って帰ったのでしょうか。

同じく一日目に開催された教育後援会
会員のつどいの特別講演。今年特別講
師として、俳優で
あり小田原ふるさと大使の阿藤快さん
に「小田原の魅力
について」をテ



●阿藤快さんは小田原ふるさと大使

テーマにご講演いただき、講演参加者を楽
しませてくれた。
学科の体験ブースでは、看護学科は毎
年恒例となる熱海病院とのコラボレーシ
ョン。血糖値測定などの健康相談に加え、
日常生活や災害時に役に立つ三角巾の使
い方や、クラッシュ症候群の紹介、トリ
アージに関するDVDの上映を行った。
理学療法学科は、来場者の疲れを癒す
マッサージの実施、作業療法学科は作
業療法士の仕事を身近に感じてもら
うとしおりの作成コーナーを設け、多
くの来場者を楽しませた。



●後夜祭後の集合写真

一般公開終
了後の後夜
祭では、例
年と趣向を
変え、学年
学科別に作
成したムー
ビー対決を
実施。こじ
んまりとし
た小田原キ
ャンパスをフルに利用し、個性の溢れる
ムービーを作成していた。後夜祭の最後
に今回の実行委員長を務めた田中優大さ
んから、「準備に関わったすべての人の
力があってこそ無事に潮風祭を開催でき
た。そのすべての人たちに感謝したい」
と感謝の気持ちが述べられた。
開催にあたり、全力で準備に取り組ん
だ学生の顔には笑顔という「彩」が輝き
を放っていた。

(学務課 下田岳史)

らみ充実した事前学習が進められた。特
に事前学習ではゼミ形式で全教員の関わ
りがあったことは各々の学生の学習力を
高めたのではないかと思われる。研修後
の報告会では一四日間の異文化体験と各
国の保健医療福祉事情を目の当たりにし
大きな収穫があったようで、まさに「百
聞は一見にしかず」である。また、研修
人数が最も多い韓国では、日々研修先
の大学生の方々のお世話で、学生間の交流
が図れ、学生各々の満足感が高いように
感じた。現在、研修後の評価では、研修
に対する学生の自己評価点数ではチーム
ワークや学習力の向上と学びが高得点を
示していた。一方、スケジュール内容や
研修時期とカリキュラムの整合性などの
課題が残されており、今後、全体的な研
修評価の分析を含め、次年度の企画に反
映させていきたいと考えている。

最後に今回の海外研修が看護職を目指
す彼らの貴重な宝となったこと、また、
専門職として質向上を目指し、あらゆる
分野で活躍できる能力の礎になったこと
を確認しております。
(国際交流委員長 今村桃子)

大学祭特別講演会 開催!

一〇月一五日、
日、福岡看護
学部大学祭「蓮
翔祭」の特別
プログラムと
して、国際医



●鈴木元教授

療福祉大学鈴
木元(すずき
げん)教授と
元準ミス日本で
医師の友利新
(ともり あらた)
氏を講師に迎
えて、特別講演会が行われた。
鈴木元教授は「放射線の人体への影
響について」をテーマに、放射線と放
射線の違いや食品の安全性など、放射
線についての正しい知識を分かりやす
く伝えた。聴講者からは、「放射線に
ついて間違っ
た認識をして
いたようで、
今日の話を暮
らしに役立て
たい」といつ
たコメントが
寄せられた。
また、皮膚
科医師の友利
新氏は、「身
体の中からキ
レイになるた
めに」をテー
マに、外見だけではなく内面からキレ
イになるための方法や、食べ物の正し
い摂取の仕方や皮膚に優しい化粧の仕
方等についてお話を頂いた。また、患
者の方々から見た看護師の仕事の重要
性も説明され、看護師を目指す人達の
共感を得たようだ。



●10/15(土)第3回 蓮翔祭が開催された



●講師の友利新医師

(入試・広報部 望月秀樹)

放射線・情報科学科

韓国学術交流会

恒例の夏期休暇中の韓国学術交流会も五年目を迎えた。これまでで最も多い一三名の学生が参加し、四泊五日の充実した内容で交流会を行うことができた。

初日は、一日の外来患者数が九〇〇人以上という延世大学セブランス病院で見学実習を行い、最先端のIT技術を学ぶことができた。二日目は高麗大学での学術発表会。日本の学生の発表が四件、韓国の学生の発表が二件で、初めての英語によるプレゼンテーションとディスカッションは、学生にとって貴重な体験となった。

また、懇親会での韓国学生との交流や、韓国文化の一端に触れる史跡見学などを通して、隣国に関する知見を少なからず広めることができたことと思う。この研修旅行が、将来、国際人として活躍するきっかけになることを願っている。(放射線・情報科学科准教授 山本智朗)



●英語でプレゼンテーションを行う三上紗季さん

看護学科

第2回 看護学科絆会

七月九日に開催されたこの同窓会は、同窓生在校生の親睦を深め、先輩・後輩の絆を作ることが主旨である。同窓生三八名、在校生二七名と福島道子学科長はじめ教員九名の総勢七四名の絆が集結した。一期生から一五期生(現三年生)が出揃い、小さなお子さん連れの参加者もいた。「懐かしい顔ぶれに再会できた。まるで家族のよう」との学科長挨拶に一同頷いた。また、同窓会代表幹事の奥平寛奈さん(三期生)は、「同窓会は一人ではできない、皆さんの協力が是非とも必要。みなさんで看護学科同窓会を盛り上げて行きましょう」と挨拶した。

参加した同窓生の多くが、本学大医院勤務ということもあり、三年生は後期から始まる実習に関する話、四年生は就職に関する話が話題の中心のようだった。同窓生からは、「国試勉強法や就職後の生活についてアドバイスできた、同級生、先輩後輩、先生方と楽しく話げできた」などの感想が聞かれた。



●昨年の2倍の74人が集結した

会の終盤では、「国際医療福祉大学ウルトラクイズ」で愛校心を競い合い、大いに盛り上がった。(看護学科 准教授 村松由紀)



●(左から)ウルトラクイズ3強の室井さん(2期生)、荒井さん(15期生3年生)、柴さん(7期生)

円滑な実習に向けて

Win・Win・Win を終えて

当学科は昨年より、臨地実習のための看護技術の習得はもちろんのこと、緊張や不安を少しでも軽減して実習に臨むことができる試みを展開している。試みの理念は、「Win・Win」である。ビジネスの世界で用いられている「Win・Win」の関係は、自分も相手もお互いに利益がある状態や関係を意味する。そこで、学生と臨床実習指導者のWin・Winの関係に教員のWinを加えて、それぞれがお互いに良好な関係を確立することを目ざしている。つまり、一つの「Win」は、学生と臨床実習指導者が顔なじみの関係をつくる、二つ目の「Win」は、臨床実習指導者が学生の特徴を知る、そして、三つ目の「Win」は、教員が学生と臨床実習指導者を見守り関係づくりの橋渡しをすることである。

今年度は学生八七名、臨床実習指導者(国際医療福祉大学病院の榎田恵津子副看護部長、師長、主任、看護師)二四名と教員一三名の総勢二四名が参加した。内容は、看護技術1として、①体位変換技術2として、①経管栄養、②フィジ



●体位変換の演習

臨床実習指導者(国際医療福祉大学病院の榎田恵津子副看護部長、師長、主任、看護師)二四名と教員一三名の総勢二四名が参加した。内容は、看護技術1として、①体位変換技術2として、①経管栄養、②フィジ

大学院 福祉援助工学分野

合宿発表会

九月一七～一八日、大学院福祉援助工学分野は毎年恒例の一泊二日の発表会を大田原キャンパスで開催した。修士課程、博士課程にOBも参加するもので、今年度新設された「福祉用具管理指導者養成領域」(修士課程)の院生のうち一三人が参加し、総勢六〇人に達した。



●学生同士の活発な意見交換の場となった

九月二四日、「第一五回医療経営戦略セミナー」が行われた。例年開催される本セミナーだが、本年度は本学大学院の高橋泰教授より「二次医療圏データベースから見えてくること〜日本の介護・医療の提供レベルの現状と将来予測、その対策」の講演が行われた。会場には病院関係者、診療情報管理コースと医療福祉マネジメントコース所属の二〜三年生が出席した。



●公演中の高橋泰教授

講演では、超高齢社会に突入したわが国で高齢者人口がさらに増加する現象は、近い将来止まることが示され、地域医療や介護を断なく提供するためには、地域の人口動態を把握し、ニーズに基づく供給計画の策定が求められると、具体的な市町村名を交えて語られた。

なお、本セミナーでは、本学科の山本康弘教授より「診療情報管理士の育成に関する取り組み」が紹介され、最後に、マロニエ会を代表して、本学科一期生の笠原敏男氏(医療法人参省会堀江病院)の挨拶をもって閉会した。

(医療福祉・マネジメント学科 講師 今野広紀)

第二七回 日本義肢装具学会 学術大会

一〇月二二日(二三日)、東京お台場に近い東京ファッションタウンビルにおいて、本学大学院の山本澄子教授を大会長として、第二七回日本義肢装具学会学術大会が開催された。今回のテーマは、「新たな社会ニーズへの対応を考える」

山本澄子大会長は初日冒頭の挨拶・講演に続き、特別企画1「災害地域での義肢装具の役割」の座長を務めた。さらに、本学の田中繁教授、前田眞治教授が一般口演の座長を務めたほか、多くの本学教員が委員に名を連ねた。

二日目には、特別企画2「かつこよさへの挑戦―義肢装具福祉用具ユーザーのファッションショー」が開かれた。ショー形式では初めての開催で、諦めていた服がちよつとした工夫で着られるようになることをユーザー自身がモデルになって紹介。ユーザーのニーズを知ること、今後、義肢装具や福祉用具に関わる職域が拡大することが期待される。



●義足や車椅子のユーザーによるファッションショー

(東京事務所広報室 金井雅之)

医療福祉・マネジメント学科

実習報告会

九月二四日、三年実習報告会が行われた。診療情報管理コース、医療福祉マネジメントコース所属の三年生は今夏、全国の病院で医事課、診療情報管理室等の現場業務の実習に励んだ。本報告会では、実習の成果が実習病院関係者と二年生に対して報告された。二年生は来夏の実習を控え、自身が耐えられるか、緊張した面持ちであった。発表の様子から報告者たちが頼もしく見えたのは、学科教員だけではあるまい。

本報告会では、関連職種連携実習報告が四年生から行われた。病院や施設で患者様に接し、現場でのケアのあり方を学ぶ貴重な機会であったことが報告された。実習を終えた三年生、実習を控える二年生、どちらも四年生たちの様子に自身の近い将来を映したに違いない。

(医療福祉・マネジメント学科講師 今野広紀)



●どの学年もそれぞれの緊張感をもって臨んだ

医療経営戦略セミナー

九月二四日、「第一五回医療経営戦略セミナー」が行われた。例年開催される本セミナーだが、本年度は本学大学院の高橋泰教授より「二次医療圏データベースから見えてくること〜日本の介護・医療の提供レベルの現状と将来予測、その対策」の講演が行われた。会場には病院関係者、診療情報管理コースと医療福祉マネジメントコース所属の二〜三年生が出席した。

講演では、超高齢社会に突入したわが国で高齢者人口がさらに増加する現象は、近い将来止まることが示され、地域医療や介護を断なく提供するためには、地域の人口動態を把握し、ニーズに基づく供給計画の策定が求められると、具体的な市町村名を交えて語られた。

なお、本セミナーでは、本学科の山本康弘教授より「診療情報管理士の育成に関する取り組み」が紹介され、最後に、マロニエ会を代表して、本学科一期生の笠原敏男氏(医療法人参省会堀江病院)の挨拶をもって閉会した。

(医療福祉・マネジメント学科 講師 今野広紀)

カルアセスメント、③新生児・乳児の抱き方である。卒業生の臨床実習指導者が中心となり親身な指導がなされた。臨床実習指導者の関わる時間が短かったという昨年の反省から「臨地実習相談コーナー」を設置。副看護部長より「国際医療福祉大学病院を知ろう」の講話を頂いた。

終了後のアンケートでは、九〇%の学生が、「臨床実習指導者は怖いというイメージをもってしたが、優しく丁寧に指導していただき不安が軽減できた」、「卒業生の方が多かったので臨床実習指導者をとっても身近に感じられた」と答えていた。



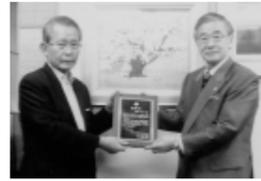
●口腔・鼻腔吸引の演習

相談コーナーでは、「実習前に何を勉強したらよいか」、「患者様との円滑なコミュニケーション方法」についての相談や、「臨床実習指導者はどのように臨地実習を乗り越えたか」、「就職」、「看護師の仕事」、「夜勤」、「男性看護師の未来」、「休みの過ごし方」等も話題となった。

学生の感想に、「実習は辛いという思いがなかったが、臨床実習指導者とかかわりを通して、実習は自分自身を成長させる期間になるのだとわかって楽しさになった」、「実習に対する不安が少しなくなり頑張ろうと思えた」等があり、「Win・Win・Win」の目的を達成することができたと考える。(看護学科准教授 谷規久子)

サクラゲローバル ホールディング株式会社 松本謙一会長に感謝状

八月二十六日、北島政樹学長は、本学の評議員でもある医療機器メーカーのサクラゲローバルホールディング株式会社の松本謙一会長を訪れ、感謝状をお渡しした。これは松本会長が東日本大震災で、本学をはじめ関連施設の介護老人保健施設マロニエ苑やその他の福祉施設等が甚大な被害を被ったことを受け、三〇〇万円もの義援金を個人的に寄付していただいたためである。学長より、学生たちが自らボランティアプロジェクトチームを立ち上げ、大田原市内や那須町でがれきの撤去や家屋の片づけなどの活動をしたほか、亡くなった在学生の出身地である宮城県岩沼市において市災害ボランティアセンターと連携して活動するなど、延べ約一二〇〇名の学生がボランティア活動に携わったこと、九州をはじめIUHWグループ関連病院施設からも多数の医師やメディカルスタッフがJMATや県の要請を受けて被災地で医療支援活動を実施したことを報告するとともに、今後も本学の建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し教職員・学生一同日々精進していくことをお伝えし、改めて松本会長に感謝と御礼を申し上げた。



(秘書室 服部是史)

福島原発事故後の 栃木県の放射線レベル

国際医療福祉大学クリニック院長 鈴木元

本年三月一日に発生した東日本大震災により、福島第一原発は炉心冷却機能を喪失し、炉心の燃料棒が溶融し、水素爆発を起こしてしまいました。これに伴い、多量の放射性物質が環境中に放出されました。当初、半減期の短いテルル132やヨウ素132、ヨウ素131などによる環境汚染が前面に出ていましたが、これらの核種による被曝は時間とともに減少し、五月頃からは半減期二年のセシウム134および半減期三〇年のセシウム137による環境汚染が主な被曝源となりました。ご心配の親御さ



んもいると思うので、大田原の現在の被曝レベルの大きさを簡単に説明します。大田原キャンパスの空間線量率を四月初旬と一〇月中旬で比較すると、グラウンドで0.5μSv/hから0.29μSv/hへ、教室内では0.1μSv/hから0.07μSv/hへと減少しています。事故前と比較すると、未だ数倍高いレベルなのですが、びっくりするようなレベルではありません。屋外で八時間、屋内で一六時間過ごすとして、一年で約1.26mSvの外部被曝になると計算されます。このレベルは、仮にお子さんをア

メリカの大学に留学させたときに息子さんが浴びる年間被曝線量を心配される方もありません。現在、流通している食品は、国や県がスクリーニングしており、汚染レベルの低いものしか流通しており、汚染レベルの低いものは流通していません。福島県は、通常の食生活を営んでいる県民四四六三名をホールボディカウンタという精密な機器で検査を行いました。その結果、放射性セシウムの内部被曝レベルは、99.7%の人で生涯予想線量1mSv未満という体内汚染しか起こしていませんでした。汚染レベルの高い福島県ですらそうですから、栃木県でも食品からの内部被曝は十分低く抑えられていると思われます。

自然界には、放射性のカリウム(カリウムの0.0117%は放射性カリウム(カリウム)などの放射性元素が微量含まれており、私たちは日常的に放射性物質を摂取しています。事故が起きる以前から、私たちはこれらの自然界の放射性物質の摂取により年間0.29mSv、五〇年で14.5mSvも浴びています。現在の食品の規制は放射線防護という観点から十分実効性を発揮していると思われ

宇宙線	0.39 mSv/年
ラドン・ガス	1.26 mSv/年
(米国2 mSv/年、北歐3 mSv/年以上)	
原始放射性核種/経口	0.29 mSv/年
原始放射性核種/外部被ばく	0.48 mSv/年
(ケララ地方 平均4 mSv/年)	
小計	2.4 mSv/年
医療被ばく	0.6 mSv/年(一部の国 約3 mSv/年)
全ての核爆発実験	0.01 mSv/年

新宿げやき園

東日本大震災に伴い、新宿げやき園は全国老人保健施設協会の要請(二名)と東京都社会福祉協議会の要請(二名)に応じ、陸前高田市と気仙沼市に介護職員の派遣を行った。

まず、藤本歩氏(四七歳、認知症対応通所介護所属・六月六日〜十二日)、高山雄一氏(二五歳、特別養護老人ホーム所属六月一日〜一六日)が陸前高田市にある介護老人保健施設「松原苑」に出向き、入所機能の再開に伴う入所者の受け入れ、在宅や避難所におられた要介護高齢者の受け入れ及び受け入れ後のケア等に携わった。

次に、六月二七日〜七月三日、東京都社会福祉協議会の要請で、東京都内施設の介護職五名とともに内田敬氏(三六歳、特別養護老人ホーム所属)が、気仙沼市の福祉避難所に位置付けられた落合保育所で支援活動を行った。

新宿げやき園では、施設一階のげやき広場等を被災者支援に提供し、様々な活動に協力している。まず、「百人町アパルト交流サロン」は、百人町アパートに避難されている東北の方々を対象に新宿区社会福祉協議会が行う被災者相談支援



●百人町地域交流会に場所を提供

職員の災害派遣と施設の被災者支援

であり、週二回相談の場所を提供している。また、百人町アパートネットワークで行う百人町地域交流会(野菜市場、コーヒーカーフェ、福島物産店、パン工房など)が、

そのほか、デパート丸井が八月に実施した百人町アパートに住む被災者たちへの「衣料品お楽しみバザー(無料)」(東日本被災地支援衣料品寄贈イベント)も、げやき広場をフルに活用した大きなイベントであった。

このように、新宿げやき園は、この地域のさまざまな交流の場所になりつつあり、ご利用者や職員も楽しんでる。

杉原素子(施設長)



●衣料品お楽しみバザーも開かれた



●新鮮な野菜が並ぶ

大学院 臨床心理学専攻

東日本大震災に派遣された 歯科従事者向け心のケアを実施

東日本大震災では多くの尊い命が一瞬のうちに喪われましたが、所持品や身体特徴からは身元判明が困難な状況が多数発生し、震災直後より歯科医による身元確認作業が行われました。これは、「検視」の補助行為として遺体を検査し、歯科資料を検討し、身元確認に寄与するという重要な作業です。急設の体育館等の遺体安置所において、家族がカーテン向この間近にいる中で震災直後から数カ月経過した遺体の確認という非常に精神的ストレスの高い作業であり、派遣後の精神的後遺症が懸念されていました。

●東京青山キャンパスに設置



そこで日本歯科医師会より、派遣された医療従事者における心のケア対策についての協力依頼が大学院臨床心理学専攻に行われました。今回の震災では、警察庁の要請により日本歯科医師会から身元確認へ派遣された歯科医師と、避難所などに対する歯科保健医療活動に従事した歯科医師、歯科衛生士等とを合わせると、概ね全体の出勤人数は八月までに九〇〇名〜一〇〇〇名に上っています。

本専攻は日頃より臨床心理士を養成する大学院として医療福祉専門職とのチーム医療を重視しており、全面的な協力体制を行うことになりました。一月六日(木)より毎週木曜日に専用電話を窓口として、「日本歯科医師会心のケア窓口」としての活動がスタートしました。窓口では、支援者が陥りやすいPTSD症状、うつ症状等についての心理教育、ストレスケアの情報提供や、地元の医療機関や相談機関の情報提供を行っています。

臨床心理学専攻内に設置されている国際医療福祉大学大学院青山心理相談室スタッフが、臨床心理学専攻教員、大学院生が一丸となって行っています。臨床心理士の活動が医療従事者へのストレスケアに貢献できる重要な機会になることを願っています。



●電話相談に応じる臨床心理士の福田恵美さん

(大学院臨床心理学専攻 白井明美)

今回は、本学保健医療学部理学療法学科及び医療福祉学研究所博士課程二期生で二六歳にして聖隷クリストファー大学の教授に就任された西田裕介さんから「寄稿いただきました。」

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部・生体機能理学療法解析学領域教授 西田裕介(理学療法士)



●研究室からメッセージを届ける西田さん

目の前の事に全力で向かう覚悟を持って

皆さんは次の言葉を「存じますか？」
「柔よく剛を制す」
おそらく知っている人も多いでしょう。では、この文の続きを「存じますか？」
「柔よく剛を制す。剛よく柔を断つ」
この文を知っている人は少ないと思います。しかし、文章はさらに続きます。
「柔よく剛を制す。剛よく柔を断つ。柔は弱にあらざる。剛は強にあらざる」
皆さんは、最初の文だけで話をしていませんか？ 片方を捉えただけで、全体を知った気になっていませんか？ この文章は「兵法」の書に記載されているもので、バランス感覚の大切さを表現しています。つまり、「自分の常識は他人の常識」という先入観にとらわれず物事に取り組むことが大切であり、その結果「共感性」が養われるのだと思います。私はその「共感性」を大切にして、目の前の事に全力を注ぎ込むよう心掛けています。
このように考えることができるようになったのも、大学時代の恩師との出会いが大きかったと思います。先生方は私たち学生に対して全力で接してくれました。

今の私にとっては、目の前の「学生」と本気で向き合う覚悟を覚えて頂いたように思います。これは医療の場でも同じです。よく、「患者さまのために」と言いますが、本当に考えなければならぬのは「患者さまのために、今、自分がすべき事は何かなのか」と思っています。これから医療の場に出ていく学生さんも、今の目の前の事（「患者さまのために」今すべき事）に全力で取り組んでください。そうすることで、自分の目指す職業にさらに興味を持てるようになると思います。みんな一人ではありません。本気の姿は必ず誰かが見えています。自分を信じ尊敬し、謙虚に進めていくことが大切だと思います。私は職業柄、様々なところで自分のプロフィールを紹介することがあります。その時に、国際医療福祉大学の卒業生であることは、私の誇りであり自慢です。未熟ではありますが、これから日本のリハビリテーション医療を牽引できるような努力していこうと思います。最後に、このような機会を与えて頂いたことに感謝申し上げます。

今年度学部に入學した留学生三名が旅行で役立つ表現とお勧め料理を紹介します。興味を持った方は、彼女たちと一緒に国際交流センターにいらしてください。

留学生紹介コーナー

点兎？ (Dian yi dian er) です。どんな意味かわかりますか？...そう、「まけてください」という意味です。中国にいらした際は、現地の人たちの会話もぜひ楽しんでください。
買い物後の食事では、夫婦肺片 (Fu fu tai pian) をお勧めします。本場の四川料理に興味のある方は、ぜひチャレンジしてみてください。

医療福祉・マネジメント学科一年

韓国出身です。海が近く、ソウルとは違った楽しみのある街です。釜山にも市場がたくさんあり、お店の人と会話をしながらの買い物は楽しい旅の思い出になると思います。市場の買い物での必須フレーズといえば韓国語でもやはり「まけてください」です。韓国語では外아주세요. (아주세요) と言います。
韓国料理も地方ごとに特色があります。釜山へいらしたら、ぜひ돼지국밥 (豚汁) を試してみてください。돼지とは豚の意味で、국밥とは雑炊に似た料理のことです。釜山の周辺でよく食べられていています。皆さん、ぜひ釜山ならではの料理を味わってみてください。



●左から易さん、チャさん、キムさん

学生投稿ページ 07

震災ボランティア活動 PART 2

繋がりの輪を絶やさずに

医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科三年 鳩山彩華
三月一日、宮城県牡鹿半島沖を震源とした東北地方太平洋沖地震で多くの方が犠牲になりました。
私たちの生活する大田原市でも、甚大な被害を受けましたが、そのような状況の中でも一番に心配だったのが、同じ大学に通う仲間の安否確認です。震災後、インターネットを利用して情報提供を呼び掛けたりしましたが、残念ながら、私たちの仲間である医療福祉・マネジメント学科二年生(当時の沼田ゆきえさんが亡くなったと聞いたのは震災から約一週間後でした。



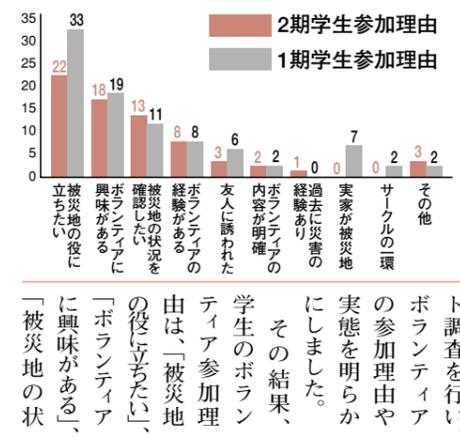
その後、私たちは大学内にあるボランティアセンターを通して、彼女の故郷である宮城県岩沼市社会福祉協議会でボランティア活動を行うことになりました。泊二日の活動では、きゅうり農家のお宅でビニールハウスの海水を含み重くなった土を外へ運ぶ作業をしました。ビニールハ

ウスの外は、津波によってどこからか運ばれてきた車や生活用品、また、車道と歩道の間には潰れた自動販売機が放置された状態になっていて、とても衝撃的で、津波の恐ろしさに、鳥肌が立ちました。
そして、これをきっかけに何かできないかということで、今回の風花祭で、岩沼市の野菜を販売し、収益を岩沼市の災害復旧のための寄付金として送ることにしました。ボランティアから約五か月後の一月一日、直接岩沼市へ取りに行かせていただき、以前より、片づけられていた様子を見て、復旧向け少しずつ前へ進んでいるのだと感じ、ビニールハウスが一面の緑で覆いつくされていたのがとても感動的でした。
風花祭一日目は生憎の雨にも関わらず、多くの方が買いにきてくださり、二日間販売する予定だった野菜が、売り切れるという嬉しい結果になりました。野菜での売上が計六万六千五百円、募金活動では、風花祭に出店した学内団体の協力もあり、計一四万〇九百六十四円、総計二〇万七千七百六十四円になりました。本当にありがとうございます。今後、ボランティアという一度だけの関係だけでなく、この企画のように、また岩沼市や農家の方と繋がることのできる活動をしていきたいと思っています。



学生ボランティア参加者を増やすためには

災害ボランティア学生調査結果より
医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科二年 米光恭祐
本学では、災害ボランティアプロジェクトチームが結成され、三月一日から三月三十一日までの活動を二期、四月一日以降の活動を三期とし活動しました。
私達、医療福祉・マネジメント学科の中田ゼミ(文末参照)は、昨年度より、ボランティア活動に積極的な学生と消極的な学生の差に注目して、本学学生のボランティア参加者数増加の方法について研究を続けてきました。今回、研究の一環として、災害ボランティアに参加した学生六二名を対象にアンケート調査を行い、ボランティアの参加理由や実態を明らかにしました。



その結果、学生のボランティア参加理由は、「被災地の役に立ちたい」、「ボランティアに興味がある」、「被災地の状況を確認したい」、「被災地でのボランティアの経験がある」、「友人に誘われた」、「ボランティアの内容が明確」、「過去に災害の経験あり」、「実家が被災地」、「サークルの環」、「その他」の順です。この結果、学生のボランティア参加理由は、「被災地の役に立ちたい」、「ボランティアに興味がある」、「被災地の状況を確認したい」、「被災地でのボランティアの経験がある」、「友人に誘われた」、「ボランティアの内容が明確」、「過去に災害の経験あり」、「実家が被災地」、「サークルの環」、「その他」の順です。この結果、学生のボランティア参加理由は、「被災地の役に立ちたい」、「ボランティアに興味がある」、「被災地の状況を確認したい」、「被災地でのボランティアの経験がある」、「友人に誘われた」、「ボランティアの内容が明確」、「過去に災害の経験あり」、「実家が被災地」、「サークルの環」、「その他」の順です。

北島政樹学長がヴロツワフ医科大学名誉医学博士号、およびポーランド外科学会名誉会員授与式に出席



北島政樹学長が10月4日、ポーランド・ヴロツワフ医科大学の招待により授与式に出席した。ヴロツワフはポーランド西部に位置し、中世から学問研究が盛んな都市で、ヴロツワフ大学はこれまでに9人のノーベル賞受賞者を輩出している。医学分野においても、コッホやポール・エールリヒ、アルツハイマー等、高名な学者がこの地に住み研究の日々を過ごした。名誉医学博士号は同大学の最高学位で、今回の授与は北島学長のポーランド医学界発展に対する貢献が高く評価されたものである。式典は同大学のミレニアムホールでポーランドの医科大学合同新年度就任式とともに厳かに行われた。



北島学長は続いて11月11日、ハンガリー・センメルweis大学名誉医学博士号の授与式に参加した。(詳細は次号に掲載)
(東京事務所広報室 今井繁)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉 eチャンネル <http://www.ch774.com>

インターネット「ビデオ・オン・デマンド」方式にて、医療・介護・福祉をキーワードに、選りすぐりの情報をお届けしています。

好評配信中



いつでも
何度でも
お好きな時間に
視聴可能です



●介護福祉士受験講座2012
(実技試験対策編は平成23年12月開講予定)

●トップクラス講義シリーズ 「私の歩んだ道」
北島政樹国際医療福祉大学学長

●乃木坂スクール
地域包括ケアの理念と現実的展開の方向性

主な配信番組

●大学授業・副教材

教育学、国際医療福祉論、ボランティア論、生命倫理、医学・医療史、健康科学理論、公衆衛生学、私の歩んだ道、関連職種連携論、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動シリーズ、産業看護の基礎、視能訓練学、等

●医療・健康

医心伝心、ボイス～医療の扉をノックする～、緩和薬理フォーラム、よりよい治療のために～肺がん～、脳科学と再生医療・遺伝子治療の最前線 創作劇「空白のカルテ」、黒岩祐治のメディカルレポート、黒岩祐治の製薬会社トップに訊く!、放射線と人体への影響

●介護・福祉

役に立つ福祉用具の今日・明日・未来、床ずれの防止とケア～基礎から用具まで～、地域包括ケアの理念と現実的展開の方向性

●資格取得受験講座

介護福祉士受験講座2012

●病院・施設実務

自立支援ケアマネジメント・自立支援介護、よくわかる! 医療福祉実務、看護生涯学習講座、地域連携コーディネーター養成講座、医療と福祉の連携、ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座、東日本大震災・私たちは何をすべきか、病院再生研究会

●リハビリテーションアワー

第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会(山梨)、第46回日本理学療法学会大会(宮崎)、2011作業療法フォーラム、日本理学療法士協会・日本作業療法士協会主催の学会・研修会、作業療法士現職者共通研修

●厚生労働省課長会議

厚生労働省障害保健福祉主管課長会議(平成23年10月31日開催) ※無料配信

お問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係(月曜～金曜 9:00～17:00)

Eメール info@iryoufukushi.com HP <http://www.ch774.com> 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

広報誌 IUHW 87 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

[大田原キャンパス] 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
[小田原キャンパス]
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
[福岡天神キャンパス]
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

[大川キャンパス]
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
[東京事務所] 広報室
東京都港区南青山1-3-3 ☎03-5775-2505
編集：東京事務所広報室
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>